

# エコアクション 21 環境経営レポート



活動期間（2024年4月～2025年3月）

[作成日：2025年6月21日]

グリーン・エコ株式会社

(当社は2022年4月に「ちばSDGsパートナー」に登録しました。本文中、ちばSDGsでの取組には  を表示しています)

## 1. 環境経営方針

### 《経営理念》

当社の環境事業(産業廃棄物収集運搬、廃棄物及び資源物活用コンサルティング、古物商)を通し、お客様をはじめ全ての関わる方々と真摯な姿勢で対応することにより形成される相互の信頼関係をベースに、企業の成長・発展を図るとともに、全従業員の物心両面の幸福を追求します。

### 《環境経営方針》

経営理念を業務遂行の羅針盤として、当社の環境事業における環境経営の継続的改善を実践し、循環型社会の形成及び地球温暖化防止に貢献することを目指します。

- (1)当社に関係する環境関連法規制等を遵守します。
- (2)受託する廃棄物の再資源化を推進します。
- (3)二酸化炭素排出量削減に取組むとともに、省エネを推進します。
- (4)経営における課題とチャンスを踏まえ、経営の改善に努めます。

当社の環境経営方針は、社内に掲示し、全ての従業員に周知します。

制定：2017年1月1日

改定：2021年4月1日

グリーン・エコ株式会社

代表取締役 田渕 浩太

## 2. 組織の概要

- ・組織名 : グリーン・エコ株式会社
- ・代表者 : 代表取締役 田渕 浩太
- ・法人設立年月日 : 平成 24 年 4 月 11 日
- ・資本金 : 1,000 万円
- ・本社機能所在地 : 千葉県千葉市若葉区更科町 1640-1
- ・登記上本社所在地 : 千葉市若葉区千城台北 3 丁目 19 番 1 号
- ・環境管理責任者 : 統括リーダー 秋葉 勝也
- ・担当者連絡先 : 043-312-5858
- ・FAX 番号 : 043-312-5859
- ・e-mail : info@green-eco-kk.com
- ・homepage : <https://www.green-eco-kk.com>
- ・事業内容 : 産業廃棄物収集運搬、廃棄物及び資源物活用コンサルティング、古物商

## 3. エコアクション 2 1 認証・登録対象範囲

当社の全事業所及び全事業活動において、エコアクション 2 1 活動を行っています。

### (1) 対象事業所

更科 ECO BASE : 千葉県千葉市若葉区更科町 1640-1

### (2) 対象事業活動

産業廃棄物収集運搬、廃棄物及び資源物活用コンサルティング、古物商

## 4. 許認可等の状況

自治体	許可番号	許可年月日 許可有効年月日	廃棄物の種類									
			汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	動植物性残渣	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず
千葉県 ☆	1200177153	令和元年6月17日	<input type="radio"/>									
		令和8年4月17日	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*1*3*2 *7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*1*3*2 *7	*1*3*2 *7
東京都	1300177153	令和2年7月10日	<input type="radio"/>									
		令和7年7月9日										*2
神奈川県 ☆	1400177153	平成29年4月12日	<input type="radio"/>									
		令和11年4月11日	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3	*3
埼玉県 ☆	1100177153	令和3年5月11日	<input type="radio"/>									
		令和10年5月1日	*2*3*7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*3*5*7	*2*3*7	*2*3*7
茨城県	00801177153	令和2年11月5日	<input type="radio"/>									
		令和7年7月14日	*5*7	*5	*5*7	*5*7	*1*2*3				*1*2	*1*2*3
栃木県	00900177153	令和3年9月8日	<input type="radio"/>									
		令和8年9月7日	*2*7	*5	*5*7	*5*7	*1*2*3				*1*2	*1*2*3

☆環境省優良産廃処理業者認定

\*1 自動車等破碎物を除く

\*2 水銀使用製品産業廃棄物を含む

\*3 石綿含有産業廃棄物を除く

\*5 水銀使用製品産業廃棄物を除く

\*7 水銀含有ばいじん等を除く

## 5. 事業規模

- 敷地面積 本社・駐車場 : 5,888 m<sup>2</sup>
- 従業員数 : 23 人
- 売上高 (3月決算) : 796 百万円 (2024年4月～2025年3月)  
(内訳)収集運搬 724 百万円、コンサル 52 百万円、古物商 20 百万円
- 産業廃棄物収集運搬量 : 21,698 トン

## 6. 車両の状況

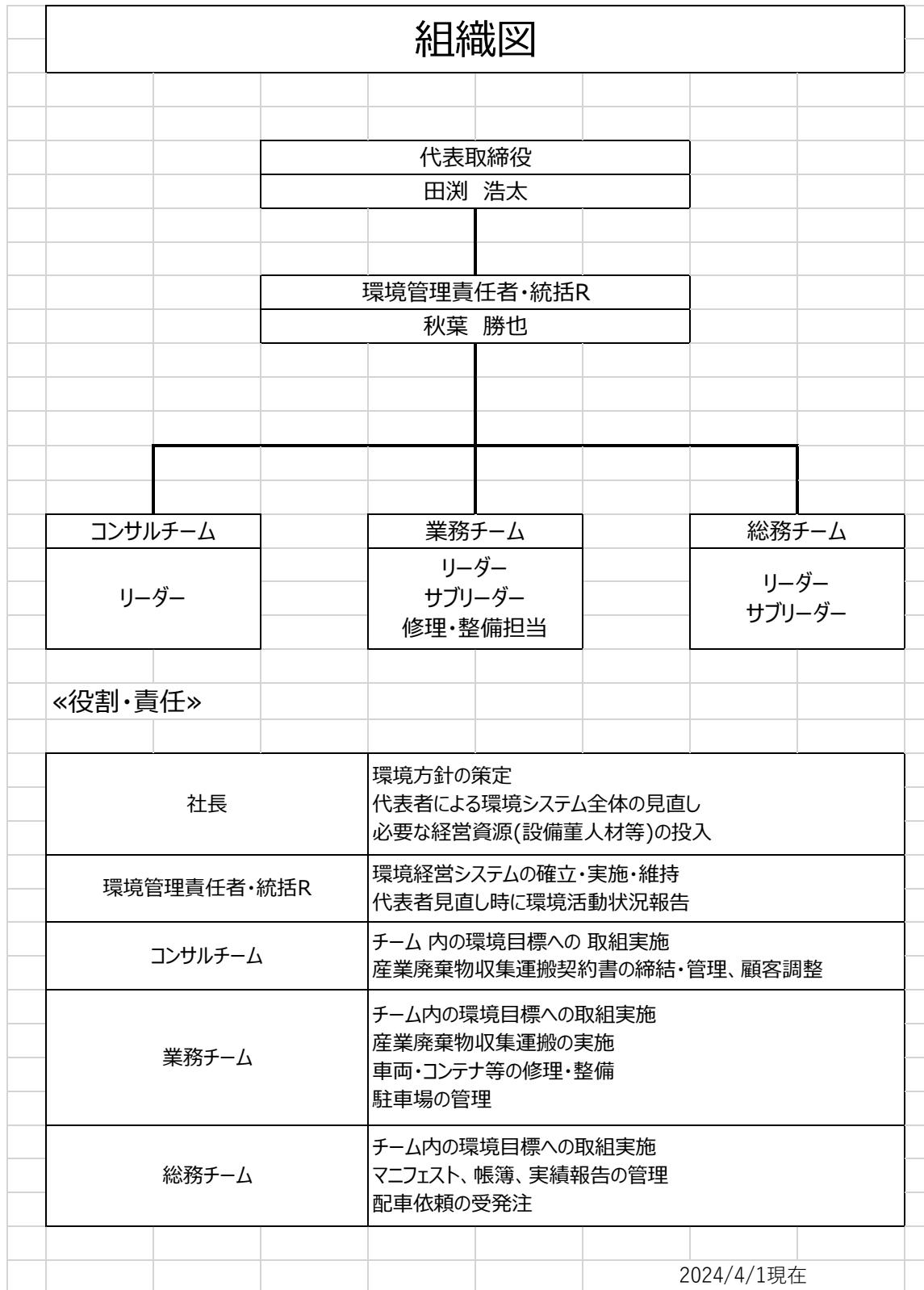
- ・2トンウイング車 1台
- ・3トンウイング車 1台
- ・4トン平ボディ車 1台
- ・3トンパッカー車 3台
- ・4トンアームロール車 2台
- ・4トンパッカー車 1台
- ・6トンウイング車 2台
- ・6トンアームロール車 4台
- ・8トンアームロール車 5台
- ・10トンダンプ車 1台
- ・軽トラック 1台

## 7. 環境負荷の状況

項目	単位	2022 年度	2023 年度	2024 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	440,803	451,435	431,929
産業廃棄物収集運搬量	トン	20,481	19,697	21,698

平成 27 年度実績二酸化炭素排出係数（東京電力エナジーパートナー調整後排出値） (0.491kg-CO2/kWh を使用)

## 8. 環境組織図



## 9. 2024 年度環境目標結果

項目	基準年度 基準値	目標値	2024 年度 実績値	評価	
				注 2	
収集運搬量 1 トン当たりの軽油使用量削減	2022 年度 8.22 L/トン	基準値比 2%削減 8.06L/トン	7.56 L/トン	◎	基準比 8.0%、目標比 6.2%削減となり、目標達成。収集運搬量の増加により、収集運搬効率の効率がアップした。
運搬車両燃費向上	2023 年度 5.01km/L	基準値比 1%向上 5.07km/L	4.84km/L	△	基準比 3.4%、目標比 4.5%悪化し、目標未達。収集運搬量の増加により、燃費は低下した。
電力使用量削減	2021 年度 11,345kWh	基準値比 8%削減 10,437kWh	10,720kWh	△	基準比 5.5%削減したが、目標比 2.7%オーバーとなり、目標未達。夏期・冬期のエアコンの利用を減らすことが難しく、目標未達となった。
紙使用量削減	2022 年度 44,600 枚	基準値比 4%削減 42800 枚	37,804 枚	◎	基準比 15.2%、目標比 11.7%削減し目標達成。請求書、契約書の電子化が進んだ。
収集運搬量拡大	2018 年度 9,255 トン	基準値比 130%向上 21,287 トン	21,698 トン	○	基準比 134%向上、目標比 1.9%向上し、目標達成した。汚泥が 70.5%、動植物性残渣が 21.3%を占め、これらに特化した営業強化の効果が大であった。

注 1：平成 27 年度二酸化炭素排出係数（東京電力エナジーパートナー調整後排出値）0.491(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用

注 2：5%以上目標達成（◎）、5%未満目標達成（○）、5%未満目標未達（△）、5%以上目標未達（×）

## 10. 環境活動内容と取組結果の評価

環境目標	環境活動内容	取組結果	評価
収集運搬量 1トン当たりの 軽油使用量 削減	燃費向上	比較的重量物の汚泥、動植物性残渣の収集運搬が増え、燃費としては悪化した。	3
	収集ルートの効率化	配車担当者 1名、各ドライバー、営業担当とのコミュニケーションにより効率化ができた。	5
	定期収集の見直し・効率化	ルート回収に組み込んだ収集先が増加し、毎月のミーティングで、ドライバー毎の作業負荷のバラツキを減らしながら効率化を図った。	5
	毎日、車両ごとの燃費算出	ドライバーごとの燃費算出を徹底し、意識付けができた。	5
	エンジンオイルの適正化	計画通り、適正オイルへの変更を進め、全車両とも適正オイルへの変更が完了した。	5
	燃費グラフによる意識向上	計画通り実施し、意識付けを図った。	5
運搬車両 燃費向上	エコドライブ手順の配布、携行	エコドライブ手順を配布し、ドライバーに携行してもらい、意識付けを図った。	5
	車両整備(月 1 回)	オイル交換、グリースアップ等の日常点検の充実を図り、故障の早期発見に努めた。	5
	毎日、車両ごとの燃費算出	ドライバーごとの燃費算出が徹底できた。	5
	エンジンオイルの適正化	計画通り、適正オイルへの変更を進めた。	5
	燃費グラフによる意識向上	計画通り実施し、意識付けを図った。	5
電力使用量 削減	エアコンの設定温度 (夏季 27 度、冬季 20 度)	徹底できた。	5
	節電啓蒙ラベル貼付	スイッチに啓蒙ラベルを貼付し、意識付けに努めた。	5
	パソコン、コピー機節電モードの実施	節電モードに設定した。	5

環境目標	環境活動内容	取組結果	評価
紙使用量削減	ファックスの電子化	プリントアウトをしない習慣が定着し始めた。	3
	請求書の電子化	約 80%の顧客で電子化が進んだ。	4
	ミスコピーの削減	パソコン画面の確認が徹底され、ミスコピーが削減された。	5
収集運搬量の拡大	廃棄物及び資源物活用 コンサルティングの提案推進  新規の契約数：月 2 件 売上目標：3,000 万円	収集運搬の営業活動で、廃棄物の有効利用、リユースの提案を継続して行った。  新規の提案・契約数は 5.5 件/月、新規の売上高は 3,868 万円と目標達成し、全体の目標値達成に貢献した。	5
	収集運搬担当者必要員数の確保	要員不足の場合は、アルバイト等でカバーしながら、不足が生じないように確保できた。	5
環境経営目標 に策定しなかった 項目	二酸化炭素排出量測定	計画通り毎月監視・測定を行った。(収集運搬量は増加したが、二酸化炭素排出量は前年度比 4.3% 削減した。)	5
	産業廃棄物排出量測定	計画通り毎月監視・測定を行った。(リユース品の廃棄があり、前年度比 73.6% 増加した。)	1
	一般廃棄物排出量測定	計画通り毎月監視・測定を行った。(前年度比 9.8% 削減し良好であった。)	5

(評価点) 5点：90%以上 4点：70%以上 3点：50%以上 2点：30%以上 1点：30%未満

(スケジュールに対する進捗度等の対計画比で評価する。)

## 11. 代表者による全体の評価と見直し

2025年4月11日に代表者による全体の評価と見直しを実施し、環境経営方針、実施体制、経営資源、環境経営システムは変更なし、環境経営目標、環境経営計画、その他の指示事項については次の通りであった。

収集運搬量は、前年度まで事業活動も順調に拡大してきており、高めの設定で活動してきた。EA21に取組開始してから初めて2023年度は収集運搬量が減少したが、2024年度は再び目標達成することができた。動残・汚泥搬入先への遠距離運搬が解消したことがプラス要因と考えられ、目標達成につながった。

燃料関係の目標である「運搬車両燃費向上」と「収集運搬量1トン当たりの軽油使用量削減」は裏腹の関係になるが、総合的には改善傾向であると評価できる。

電力使用量削減と紙使用量削減は地道な活動が実を結んできたと評価できる。

### (1) 環境経営目標

2025年度～2027年度の3ヶ年計画は従来の目標に取り組み、目標値は2024年度の実績を考慮し設定する。

- (a) 収集運搬量1トン当たりの軽油使用量削減は、2024年度に長距離運搬がなくなり、比較的重量物を大型車両で運搬することが定着したので、2024年度実績を基準に変更し、3ヶ年計画を基準比で1%,2%,3%削減で目標値を設定すること。
- (b) 運搬車両燃費向上は、対象車両は前年度と同じく15台であるが、2台が対象外となり新規に2台が対象になるので、燃費を計算し直し、3ヶ年計画を2024年度基準比で1%,2%,3%向上で目標値を設定すること。
- (c) 電力使用量削減、2021年度を基準にし、3ヶ年計画を基準比で7%,8%,9%削減で目標値を設定すること。
- (d) 紙使用量削減は2022年度を基準にし、3ヶ年計画を基準比で17%,18%,19%削減で目標値を設定すること。
- (e) 収集運搬量拡大は2018年度基準で、3か年計画を基準比で136%,138%,140%向上で目標値を設定すること。

### (2) 環境経営計画

前年度の計画を引き続き設定すること。また、その他の環境活動は二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量、一般廃棄物排出量の測定を継続すること。

### (3) その他の代表者の指示事項

- (a) 太陽光発電を資材保管庫の自動開閉扉、洗車水循環施設のポンプ・プロワーに利用できるように進めること。
- (b) 前回指示した「課題とチャンス」に関する目標の検討は、これまで結果が得られていないので、継続して検討すること。

## 12. 環境目標 3か年 (2025~2027 年度) 計画

項目	単位	基準年度 基準値	目標値		
			2025 年度	2026 年度	2027 年度
収集運搬量 1 トン当たりの 軽油使用量削減	L/トン	2024 年度 7.56	基準値比 1%削減 7.48	基準値比 2%削減 7.41	基準値比 3%削減 7.33
運搬車両燃費向上(注 1)	km/ L	2024 年度 5.06	基準値比 1%向上 5.11	基準値比 2%向上 5.16	基準値比 3%向上 5.21
電力使用量削減	kWh	2021 年度 11,345	基準値比 7%削減 10,551	基準値比 8%削減 10,437	基準値比 9%削減 10,324
紙使用量削減	枚	2022 年度 44,600 枚	基準値比 17%削減 37,018	基準値比 18%削減 36,572	基準値比 19%削減 36,126
収集運搬量拡大	トン	2018 年度 9,255	基準値比 136%向上 21,842	基準値比 138%向上 22,027	基準値比 140%向上 22,212

(注 1) 運搬車両燃費向上：2024 年度 15 台の対象車両のうち 2 台が廃車になり対象外となりました。2023 年度以降に導入され 2024 年度に 1 年間の燃費データがある 2 台が対象車両に追加になり、新たな対象車両 15 台の 2024 年度燃費を算出し基準としています。

(注 2) 二酸化炭素排出量削減目標：収集運搬量拡大目標により軽油使用量及び二酸化炭素排出量が増加するため、目標は設定せずに前年度と比較評価します。

(注 3)一般廃棄物排出量の削減は、これ以上の削減が難しいため、2020 年度より環境目標から除外しましたが、今後も廃棄物の分別を徹底して減量化に努めることとします。

(注 4)産廃の排出量は少ないため、削減目標は設定しませんが、今後も分別を徹底して減量化に努めることとします。

(注 5)化学物質は使用していないため、削減目標に取り組んでいません。

(注 6)地下水を使用していますが、浄化槽で使用しているだけで使用量を把握していないため、削減目標に取り組んでいません。今後も節水に努めることとします。

## 13. 2025 年度の環境活動内容

環境目標項目	環境活動内容
収集運搬量 1 トン当たりの軽油使用量削減	燃費向上 収集ルートの効率化 定期収集の見直し・効率化 毎日、車両ごとの燃費算出 エンジンオイルの適正化 燃費グラフによる意識向上
運搬車両燃費向上	エコドライブ手順の配布、携行 車両整備(月 1 回) 毎日、車両ごとの燃費算出 エンジンオイルの適正化 燃費グラフによる意識向上
電力使用量削減	エアコンの設定温度(夏季 27 度、冬季 20 度) 節電啓蒙ラベル貼付 パソコン、コピー機節電モードの実施
紙使用量削減	アクセスの電子化 請求書の電子化 ミスコピーの削減
収集運搬量拡大	廃棄物及び資源物活用コンサルティングの提案推進 収集運搬担当者必要員数の確保
環境経営目標に策定しなかった項目の環境活動	二酸化炭素排出量測定 産業廃棄物排出量測定 一般廃棄物排出量測定

## 14. 環境関連法令の遵守状況の確認

当社に適用される環境関連法令について、6月、8月、10月、11月、12月、4月に、それぞれの直近で該当する法令の遵守評価を実施し、問題ありませんでした。また、過去3年間に違反及び訴訟はありません。

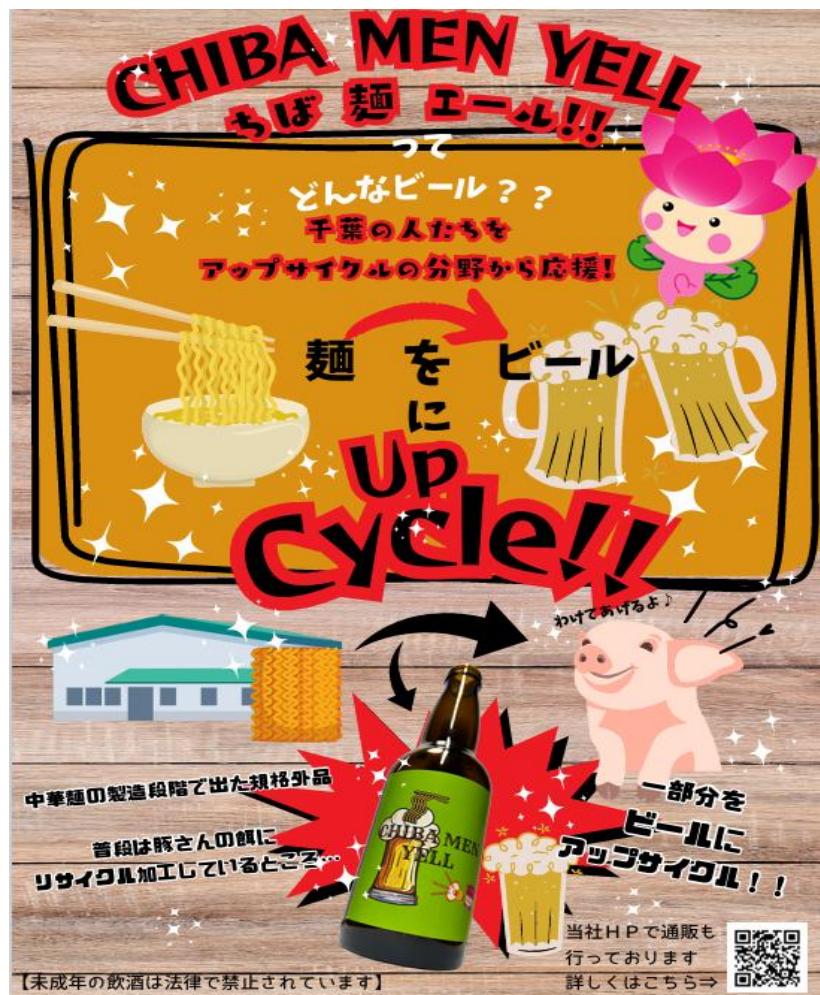
当社に適用される主な環境関連法令は次の通りです。

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・自動車 NO<sub>x</sub>、PM 法
- ・道路交通法
- ・道路運送車両法
- ・特定家庭用機器再商品化法
- ・使用済自動車の再資源化等に関する法律
- ・労働安全衛生法
- ・浄化槽法

## 15. 環境地域活動

### アップサイクルPROJECT

私たちは資源循環業という見地から、これからも次々とアップサイクル商品の輪を広めていこうと思っており、今回のアップサイクルビールはその第一歩です。



### CHIBA MEN YELL とは？

今回関わって頂いた企業が、弊社も含め、全て千葉市だったことから、千葉市民を盛り上げる意味も込め、千葉市緑政課様にもご協力を仰ぎ、千葉市のマスコットキャラクターであります「ちはなちゃん」を本商品のラベルに取り入れ、

「CHIBA MEN YELL」と名付けました！！

さらに、このラベルはグリーン・エコ(株)全員に社内公募し、みんなの意見やラフ画などを取り入れて、社員一丸となって作成したものです。

(アップサイクルビールは、2024年3月まで当社のリユース部で、その後独立した新会社がプロデュースし製造しており、グリーン・エコ(株)が販売しています。第2作目として、シュークリームの皮(廃棄物)から作られたビールも販売しています。)